



島根県埋蔵文化財調査センターでは、大橋川河川改修事業に伴う発掘調査を行っています。
今年度5月23日より調査している朝酌矢田Ⅱ遺跡E区(松江市朝酌町)では、縄文時代から古墳時代にかけての様々な遺構・遺物が発見されました。なかでも弥生時代の配石木棺墓は、県内で10年に一度発見されるかどうかという大変珍しいものです。まさに今、配石木棺墓の調査の只中ですので、今後さらなる発見があるかもしれません。なお、調査は8月上旬まで行う予定です。

1. 朝酌矢田Ⅱ遺跡

朝酌矢田Ⅱ遺跡は、松江市朝酌町の大橋川北岸に位置します。令和2年度に実施したC区の調査では、『出雲国風土記』に登場する「朝酌渡」に関連する古代の石敷護岸が発見され、注目されました。
今回の調査地(E区)は、この石敷護岸より北西約100mにある丘陵部で、斜面部を中心に縄文時代から古墳時代までの建物跡や墓跡が多数発見されました。

【縄文時代】

弥生時代の遺構の下から縄文土器が出土しており、現在調査中。

【弥生時代】

中期と推定される配石木棺墓1基、配石を伴わない木棺墓と考えられる墓を2基以上確認(内部を調査中)。後期の建物跡1棟、土坑1基(青緑色のガラス小玉1点出土)を検出。また、後期の木棺墓も調査中。

【古墳時代】

終末期(飛鳥時代)の建物跡2棟以上を確認。うち1棟は床面にカマドを使用した被熱痕跡を検出。丘陵上では、平面形が弧状を呈する溝が発見され、多数の川原石や土器が出土しました。このことから、古墳あるいは祭祀場があった可能性があります。

2. 弥生時代の配石木棺墓

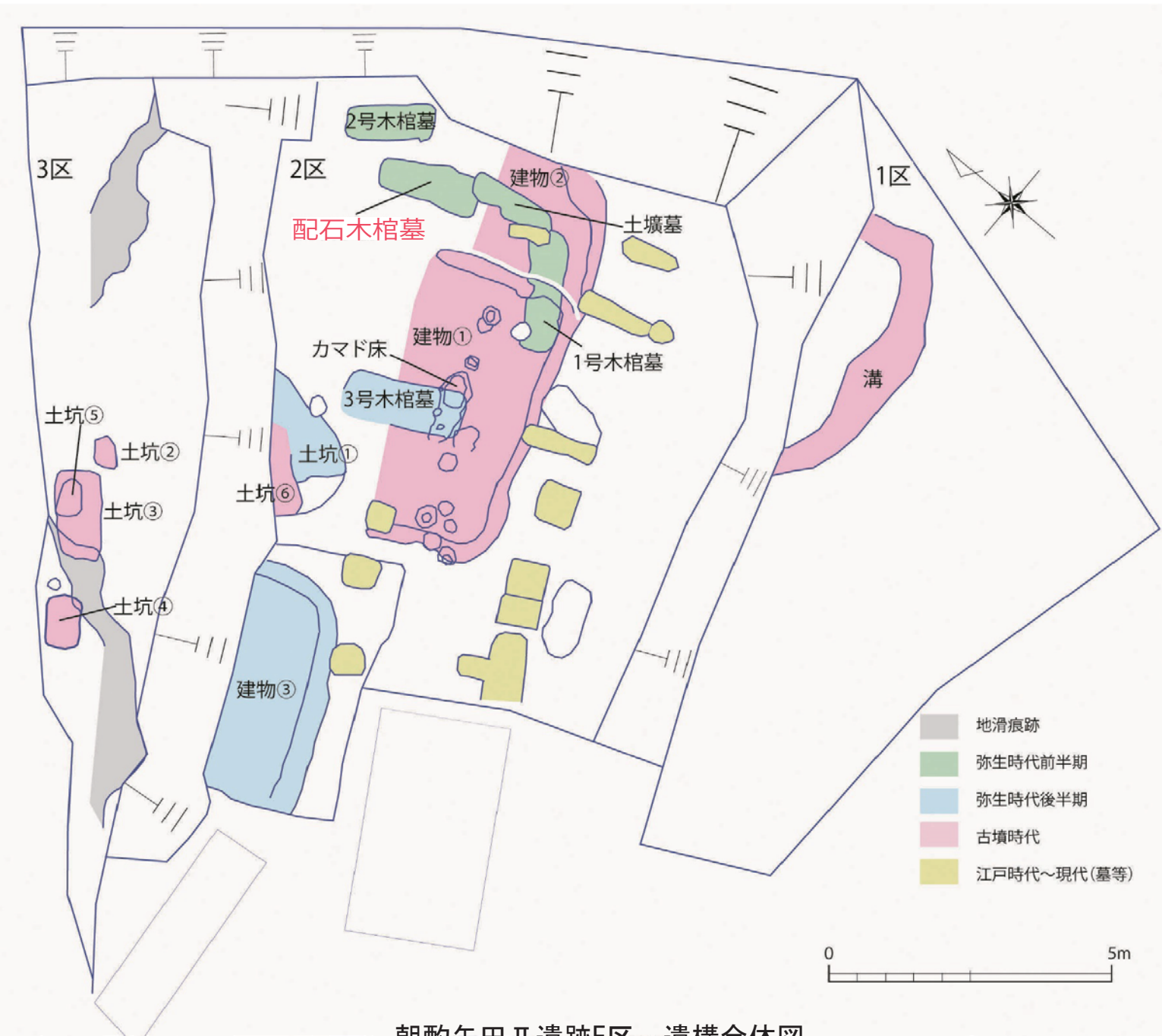
配石木棺墓は、長さ182cm、幅74cm、深さ40cm以上の長方形の墓穴に、木棺を納めて埋めた後、上面を径約15～35cmの扁平な川原石(現存60個、流出分を合わせると80個程度と推定)で覆った構造をもっています。(詳細は裏面参照)

配石の隙間から弥生土器小片と磨製石斧1点が発見されており、木棺内部は現在調査中で、副葬品は現時点では未確認です。

また、配石木棺墓の周辺に、配石をもたない木棺墓や、木棺をもたない土壌墓が計3基集中しており、これらが一つのグループになると考えられ、調査区北側にも広がる可能性があります。

3. 調査の成果・意義

- ① 配石木棺墓は、弥生時代初めに朝鮮半島から伝わった埋葬方法で、弥生時代前半期の山陰にも広がるが、調査例はきわめて少なく、その伝わり方や変化のようすを考える上で貴重な資料を得ることができました。
類例：松江市鹿島町：堀部第1遺跡(1998年旧鹿島町教育委員会調査、一部県指定史跡)
松江市浜乃木町：友田遺跡(1981年松江市教育委員会調査)
- ② 配石木棺墓のつくられた当時のようすを推定復元したところ、配石する前の標石と配石する後の標石の2種類の標石が確認されました。特に後者のつくりは、小型ながらも朝鮮半島西南部や西北九州に見られる「基盤型支石墓」と共通し、配石木棺墓の伝わり方や、変化の実態を考える上で注目されます。
- ③ 今回の調査区では、縄文時代から古墳時代までの集落跡や墓跡が、狭い範囲に重複して発見されたことから、この地域が古代に朝酌渡が置かれる以前から、重要な地域(陸上交通と水上交通の交点など)として、人々の営みが活発に行われてきた場所と考えられます。



朝酌矢田Ⅱ遺跡E区 遺構全体図



← 配石発見時の様子

中央部の石が落ち込んでいることから、木棺が朽ち果てた際に配石が陥没したものと推定し、墓穴の検出を開始しました。

→ 「標石」発見時のようす (上・中・下)

配石を1個ずつ取り上げたところ、中央部の最も低い位置と、南端の最も高い位置にそれぞれ1個の「標石」が確認されました。特に後者(中の写真)の直下には、標石を支える小石が4個程置かれているのが確認されました。



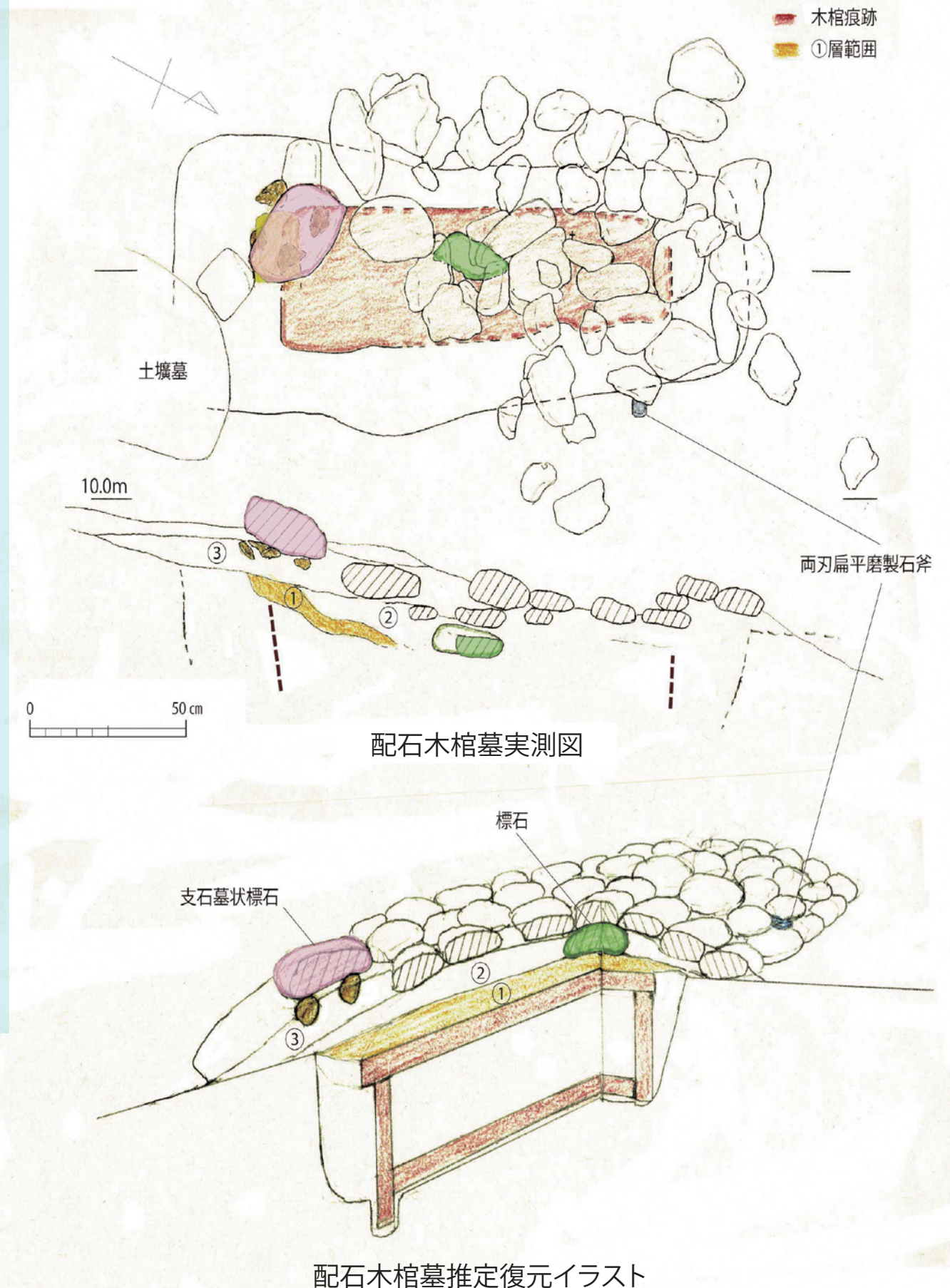
← 取り上げた配石を敷き並べてみた!

配石に使用された石材は60個残っていましたが、流出したものを合わせると元は80個程度と推定されます。およそ一畳程度の広さです。



→ 発見された木棺の痕跡

墓穴を10cm程度掘り下げ、朽ち果てた木棺の痕跡をようやく検出できました。



<配石のようす> つくられた当時の配石木棺墓のようすは、墓穴内部の土層観察により、現時点で上のイラストのように推定復元しています。

- ①木棺のふたの上に黄白色の土を数cmの厚さで盛り、中央部に標石を1個だけ置く
- ②さらに土を盛る
- ③盛られた土の高まりの上面・周縁部に川原石を貼り付け、すき間を土で埋める
- ④盛土の南端(推定で頭部側の真上にあたる位置)に小石を4箇所置き、その上に長径35cmの扁平な川原石を置く(支石墓状の標石)

<木棺のようす> 木棺は朽ち果てて残っていませんが、その痕跡から外法の長さ125cm、幅30~40cmの長方形で、高さは推定40cm程度と考えられます。